奥多摩　丹波川　大黒茂谷

遡行日　０９年4月２６日
メンバー：菊地（L）、奥平、神戸、
新井（記録）

今回はシーズン初めの足慣らしという目的で日帰りの沢に４人が集まった。リーダーは菊地さん。リーダーと呼ぶより隊長と呼ぶ方がいい様な頼もしい、気は優しくて力持ち（以下、隊長）。彼にお姫様抱っこされたいと思う女性も多い。次に奥平さん。泣く子も黙る、山友会代表だ。厳しくも優しい。そして紅一点、山友会のアイドル、神戸さん。技術も確かである。最後に記録係の新井。飲み会には来るが山には来ないズッコケ担当。今年は好きな渓流釣りも一度も行けてなくて、全く初の沢歩きでヤバい。危険が危ない状態。

４月２５日　雨
２１：００。前夜海老名駅に集合。数日降り続く雨がまだ強く降っている。予報によると朝までに止んで明日は晴れるらしい。
２３：３０。奥多摩湖畔の公衆トイレの駐車場着。まだ軽く雨が降っていたがテントを張って入山祝いの酒盛り後、就寝。

４月２６日　曇りときどき晴れ
５：００。起床。霞んでいるが雨は止んでいて、日の出とともに明るく晴れて来た。朝食後車で出発。
６：２０。青梅街道の三条新橋のゲートに車を駐車して林道を歩き始める。川を見ると、昨夜までの雨で水は薄く濁っている。釣り用語の「ササ濁り」状態で最も釣れる条件だ。新井は密かに釣り竿を隠し持って来ていてヨダレモノだったのだが残念ながら釣りをする時間は無かった。１時間ほどで大黒茂沢出合に着く。
７：４０。沢仕度をして入渓。ちょっと冷たいが、それほど増水している様子もない。すぐ後ろにゲートで出会った男性２人組パーティーも来ている。やがて巨岩帯になる。手がかりの乏しい大岩では、お助けスリングと奥平さんの肩を足懸かりに、文字通り「肩を貸して」もらい進んで行く。

８：００。大きな堰堤が出てくる。「ここが一番の難所で唯一ロープが必要」と皮肉って書かれている記録もあるが、右側からロープ無しで昇り降り出来た。
８：２０。Ｆ１、３mのＣＳ滝は右から小さく巻く。その後は数多くのナメやナメ滝、階段状の滝、大小の淵など変化に富んだ渓相で楽しく、気持ち良く快適に進む。
９：００。突然ザーッと何か降ってきた。アラレか？と思ったらどんどん粒が大きくなってきて体に当たって痛い。銀玉鉄砲の銀玉大（例えが昭和だなぁ）の氷の粒だ。１０分余りで止んだが、その間、体を小さくして身動き出来なかった。天気予報は晴れだったがほとんど晴れず、まさかこんなヒョウが降るとは。チクショーっ、訴えてやるっっ！！と言ってヘルメットを、くるりんパっ、とかぶったのは言うまでもない。気を取り直して進むが何か水が冷たくなっている様な気が。雪しろか？今ヒョウが降ったからヒョウしろか？川岸にはヒョウが融けずに残っている。
９：３０。Ｆ３の６m幅広滝。後から考えるとここが一番の核心部だった。途中から先行していた２人組パーティーの１人が真ん中に取り付く。もう１人は右側をヘツる様に越えて行った。菊地隊長も続いて真ん中に取り付くと、何と、滝の落ち口から先行者がツルツルっと落ちてくるではないか。危ないっ！隊長の横を通過して浅い釜

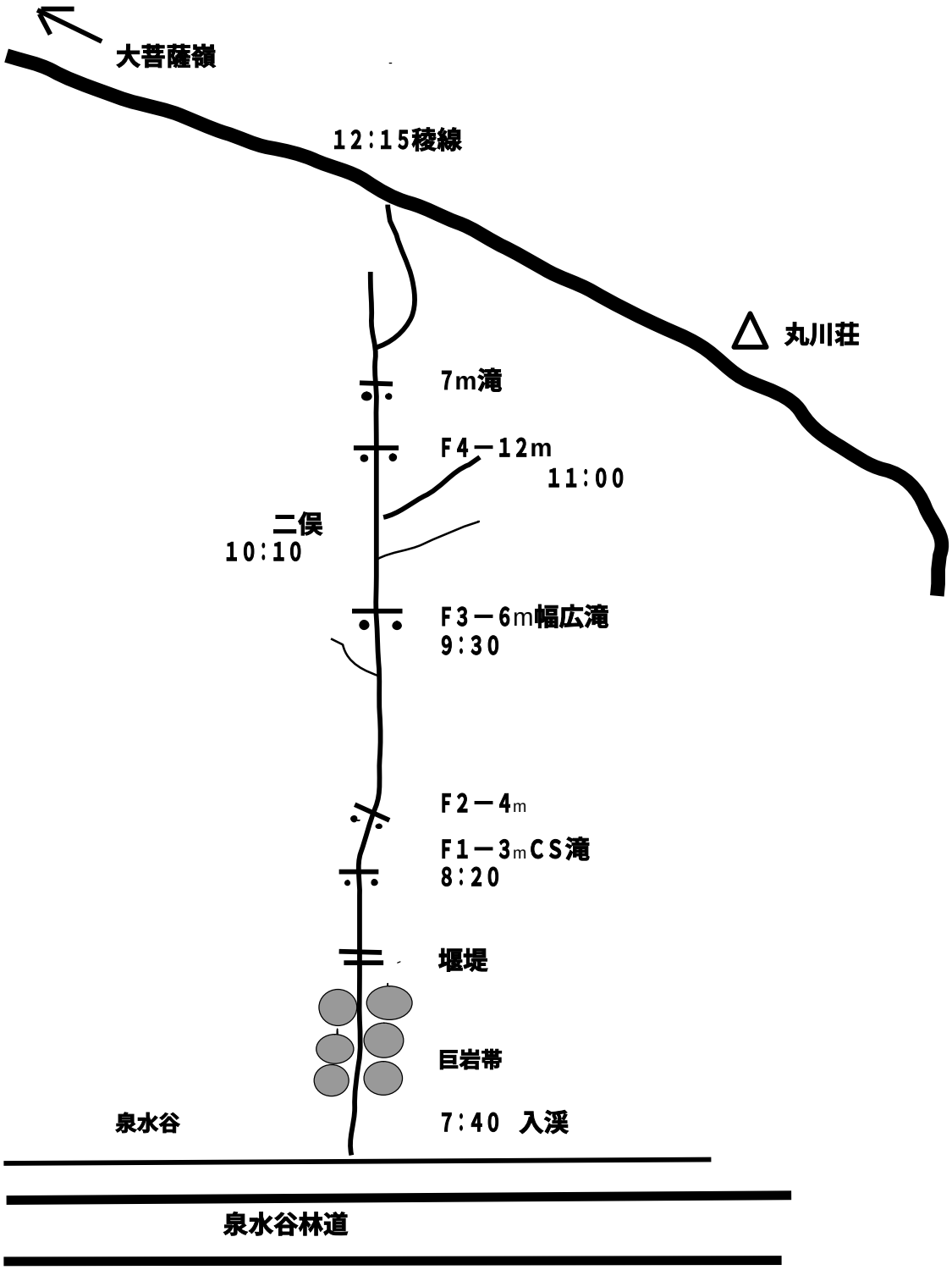
に落ちたが接触したら危なかった。ツルっとした一枚岩のナメ滝で真ん中が少し窪んでいて僅かにホールドがある。落ち口あたりはホールドが無い様だ。隊長はゆっくり慎重に登り切った。ロープを垂らしてくれる。次に神戸さん。驚いたことに落ち口の核心部もスルっと越えて行ってしまった。次に新井。よ～し、クライミングジム「攀」で鍛えた俺のテクニックが火を噴くぜ！と挑んだのだが、火を噴いたのは自分の手足の筋肉だった。威勢は良かったがやはり落ち口手前でホールドが探せず止まってしまう。今立っているホールドもギリギリで長くは持たない。おまけにヒョウで益々冷たくなった水が顔から掛かり、手をかじかませる。隊長がロープを強めに引いてくれてどうにか登った。いや～、冷たかった。Ｆ３を越えて少し行くと晴れてきて一心地付く。しかし、この後も太陽はたまにしか顔を出さず、水も冷たく最後まで寒かった。

１１：００。Ｆ４の１２m滝。念のためロープを出す。ここも落ち口下がちょっと悪いがＦ３よりは楽に登れた。少し進むとすぐに７m滝が現れる。他の記録では名前は付いてないが、Ｆ５と呼びたいところ。２人組は左を高巻こうとして高く突き上げられているのが下から見える。沢に戻るのは難しそうだ。菊地隊長の判断で流れ右寄りのクラックを一応ロープを出して登った。ここまで来る間に仕事道の木橋が２本横切っているはずだが、流されて壊れた橋の残骸を一つ見ただけだった。途中の水溜りでカエルの卵を見つける度に奥平代表が「ゲーっ！もうところてん食えない」、「ゲーっ！もうミツ豆食えない」などと言っていた。

その後どんどん水流は細くなって傾斜もキツくなってくる。皆はスイスイ登っていくが新井はバテバテでスローペースに。

１２：１５。少々のヤブ漕ぎの後、登山道に出た。３０分ほど休憩して大菩薩には向かわずに下山した。もう難所は無いと安心し切った新井は歩きながら「峠のゲート、下から読んでもトーゲのゲート」、「この樹の模様ブラックダイアモンドのマークに似てません？」などとくだらない事を言うと、奥平代表は「ふ～ん」という反応だけで処理した。

帰りは車で相模湖畔の食堂「カーブ」に寄り、うどん定食５００円で締めたのは言うまでもない。皆さん、楽しい沢登りありがとうございました。


大菩薩嶺
12:15稜線
丸川荘
7m滝
F4－12m
11:00
二俣
10:10
F3－6m幅広滝
9:30
F2－4m
F1－3mCS滝
8:20
堰堤
巨岩帯
泉水谷
7:40 入渓
泉水谷林道